

問1 上の詩は谷川俊太郎さんの「生きる」という詩の第4・5連です。各連は

「生きているということ／今生きているということ」で始まりますが、このような表現技法を何というでしょう。漢字二字で答えなさい。

生きているということ
いま生きているということ
いま遠くで犬が吠えるということ
いま地球が廻(まわ)っているということ
いまどこかで産声があがるといこと
いまどこかで兵士が傷つくといこと
いまぶらんこがゆれているといこと
いまいまが過ぎてゆくこと

(難問)

問2 第4連の5つの「いま(点線で囲まれている部分)」はどんなことが言いたいのでしょう。

「つながり」という言葉を使って自分の言葉で書きましょう。(※意味が変わらなければ「つながる」など形を変えても構いません。)

生きているということ

いま生きているということ

鳥ははばたくということ

海はとどろくということ

かたつむりははうということ

人は愛するということ

あなたの手のぬくみ

いのちということ

(「生きる」より一部抜粋)

問3 第5連に

「鳥ははばたくということ

海はとどろくということ

かたつむりははうということ」とありますが、

「鳥が／海が／かたつむりが」ではなく、

「は」が使われることでどのような違いが生まれるでしょう。三五〇字以内で書きなさい。

問4

作者はこの詩を通して、読み手(私たちに)にどんなことを伝えたかったのでしょうか。考えて四〇字程度で書きましょう。

答え

問 1 反復

問 2 (例)この地球上では、いまも世界中で様々な出来事が起きており、それらは私たちが生きていることと、どこかでつながりをもっているということ。

問 3 (例)「鳥が羽ばたく」は具体的な事実だが、「鳥ははばたく」ことは当たり前で、自然なことである。

問 4 省略。

- ① 四〇字程度で書けているか。
 - ② 「〜こと。」で文章が終わっているか。
 - ③ 「作者の伝えたかったこと」について書かれているか。
- などがポイントです。